

「郵趣遍歴」(1)

使用済田型の収集

私はこの5月で94歳を迎えた。収集を始めてから、既に80年以上が経過。かつての収友や先輩達は、ことごとく他界された。その為、個人的な思い出も、日本の郵趣史の一面を語ることにつながるだろう。

戦争のため、私の郵趣活動も、一時的に中断を余儀なくさせられていた。しかし、昭和20年(1945)の終戦と共に、郵趣への復帰も加速された。光明を与えてくれたのが、占領米軍の活動だった。民間情報教育局(CIE)により、全国の大都市には、米国の最新刊出版物を備えた、図書館が開設された。これは無料で、郵趣関係でも、スコット・カタログの最新版や、週刊誌の”Stamps”や”Weekly Philatelic Gossip”などを、気軽に利用できた。このとき、”Gossip”誌に載った、米国切手収集家の英国人の記事が、特に印象的だった。

彼は、英国に居て米国の使用済田型を収集していた。その体験上、単片では容易に入手できるものが、使用済田型となると、意外に困難となる例があると、指摘していた。これに刺激されて、私も米国の当時現行切手だった、大統領シリーズに挑戦してみた。結果は彼の言う通り、シート切手32種類を、使用済田型で揃えることは、容易ではなかった。

いろいろ経験を積みながら、何とか目標に到達できたときには、この収集に完全にはまってしまった。

魚木五夫(日本郵趣協会名誉会員)



16セント：リンカーン



19セント：ヘイズ



1ドル：ウィルソン(透かし入り)